

# 日記 「魔人の水」

研究第一部 小林千夏  
企画調査部 平野由美

七月十五日水曜日 晴れ



梅雨の東京を飛び出して迎り着いた道東網走の空は、まさにオホーツクの夏を迎えたばかり。吹く風は爽やかで、「ああ、北の大地に来たのだ。」と実感。夏休み目前、ベストシーズンの道東水辺巡りの旅が始まった。

一級河川網走川水系の魚無川は平成元年にふるさとの川として認定を受けた。水生生物の棲息に配慮した河川護岸の整備と、認定区域内の通年利用が可能な整備という二つのポイントで改修された。その中の施設の一つである第一遊水池公園というイベント広場では、鬱蒼と生い茂った河岸の草刈りをしている最中だった。高い位置から眺めてみただけ、川の流れが見えなくてまるで三三三湿原のようだった。ここでは「夕焼けコンサート」を初めとした様々な活動が行われているそうだ。

この辺りは列車の本数が少ないので移動手段は車が便利だ。まっすぐな道を何kmも時には何十kmも次の角までひた走る。遙か先まで見えるのになかなか辿り着けない。左右に広がるビートやジャガイモ畑の端が見える。途中立ち寄ったサロマ湖も海かと思う程に大きくて、三六〇度見渡せる展望台からいつまでも眺めてしまった。「広い、大きい、きれい。」この言葉が勝手に口をついて出る。美味しい空気と北海道の広さで満腹の一日だった。

七月十六日木曜日 今日も晴れ

目的地は知床半島だ。途中、いくつもの原生花園（ハマナスなどの可憐な花々が咲いている。）を眺めつつオホーツク海に沿って進み、ようやく到着した。

知床はアイヌ語で「最果ての地」という意味。原始の厳しい自然の姿を残した大地だ。人間によって環境を破壊されることもなく、観光地化された今でもヒグマや鹿などの野生動物が悠々と暮らしている。ウトロ発の観光船「オーロラ号」に乗船して半島を海から見学してみた。解説はもちろん歌まで付いている。

知床半島の中でも「知床五湖」は火山によって出来た流れ込む川も流れ出る川も無いという実に不思議な5つ



の湖。もう一つ不思議なのが湖の名前。なんと1湖、2湖、3湖・・・と言うのだ。野生のヒグマが棲息していて、今日は3〜5湖が立ち入り禁止になっていた。それじゃあと1湖に向かったのだが、子連れの熊がすぐ近くで現れたという情報を聞いてやむを得ず引き返した。残念。

知床五湖から土煙が濼々と上がる砂利道を一路「カムイワッカの滝」へ。この滝、またの名を「魔人の水」という。なんだか興味をそられる名である。道端には他県ナンバーの車やバイクが並び、それぞれに着替えをしている。それではと、私達も早速素足にスニーカー、手には軍手といういでたちで、いざ滝登り。それは何故かというところはこの滝、秘湯中の秘湯なのだ。いくつもの小さな滝が連なっていて、登れば登るほどその滝壺はお湯になっていく。森の中を流れる滝を、自分達で進路を決めて温泉目指して登って行く。足場はかなり滑るので、ロクククライマー顔負けで四肢を精一杯伸ばして這いつくばって進んでいった。来た道を振り返る余裕などなく三〇分近くかかって遂に到着。先客が水着になり飛び込んだ。気分良さそうじゃ、私達はスポーツドリンクで乾杯！体中に染みわたって美味しい！しばらく滝壺を眺めながら休憩した。

さあそろそろ帰ろう、そう思って今さっき登ってきた道程を見下ろした。そこはまるで断崖絶壁の上のようだった。どうやってここまで登ってきたのだろう。本当に戻れるの？へっぴり腰で往きより大分時間をかけたがそれでもなんとか降りきった。思いつ切り筋肉痛だ。ハア、だけどすこくいい気分。今夜はぐっすり眠れそうだ。